



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会

8月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2015年(平成27年) 8月1日(土)

NO. 167

しばしのお別れ

文化部 矢口裕司

帰国した二十三日、日本は曇っていました。ところどころ黒雲が空を覆い、今にも雨が降ってきそうだったので。

その曇り空を見てすぐ、会員の皆さんの笑顔とともにロスアンゼルス空を思い出しました。一昨日は皆さんとパーベキューをしたのだなあ、とすでに懐かしさがこみ上げています。

三年間担当させていただき、今回は忘れられない最後の出張となりました。皆さんとの出会いによって、大きく成長できましたし、これから人生にとって大きなステップアップになることは間違いありません。

今回は倫理USA設立二十周年記念式典を行い、改めて皆さんが築かれてきた時間の長さひとすに学ばれてきた努力を感じました。これからの更なる発展のために、ぜひ会員一人ひとりが希望を持って進んでほしいと思います。

相手を輝かせるためには、まず自分が輝くこと。自分自身が変わること。純粋倫理は

そのスイッチを入れてくれるものだと思えます。日常生活の中にあふれている純粋倫理の学びの尊さに気づくことによって、よりよい人生を築き上げていきましょう。

二十九歳で初めてロスを訪れ、気づけば三十二歳。三年間はあつという間でした。本当にあつという間の時間でした。息子のような、または孫のような年齢の私を毎回温かく迎えてくださり感謝でいっぱいです。五回しかそちらへお伺い出来ませんでした、また是非皆さんとお会いできる日を心待ちにしています。

最後のお別れではなく、しばしのお別れです。倫理はどこでもひとつながりですから、必ず再会できるでしょう。

次年度はブラジル担当になりました。ロスの地で得たものを、今度はブラジルの地で活かしていきます。皆さんのますますのご活躍と、いつまでもお元気でいていただけたら幸いです。本当に三年間ありがとうございました!!



倫理USA設立二十周年記念式典

六月二十一日(日)午前八時半から、矢口裕司専任研究員をお迎えして倫理オフィスで開かれました。

橋勝雄会長は、倫理の会を支えて来られた諸先輩の努力を讃え、また未来に向けて更に皆の協力で会を発展させましょうと挨拶されました。

二十年の経過報告は滝川歌子さんだからこそ出来るとても詳しく分かりやすい報告でした。私も、もつと早く入会したかったです。

矢口裕司文化部専任研究員の祝辞は各自目標を持って生きる事、自分自信を磨きながら生活する事、まず身の回りにある事を大切にすることが丸山敏雄先生の倫理スピリットであり、それを伝えて倫理USAが繁栄しますようにと勇気づけてくださいました。

経験の浅い私が大事な進行係をさせて頂いてしまいました。暗記をしたつもりでしたが皆様の前では思うよう出来なかったことを反省しています。

(参加者二十五名)
(藤間富士子記)



しきなみ短歌会

六月十九日(金) 午後七時より
倫理オフィスにて矢口裕司先生と共に
しきなみ短歌会を開いた。講話で
は創始者・丸山敏雄先生がこれまで
に記した書物の中から倫理の精神が
如何にしきなみ短歌に活かされてい
るかを学んだ。

あるがままを見つめ、今ある
状態そのものを良しとし、受け入れ
喜べる力を育んでゆけるのが「しき
なみ短歌」にはあるのである。是非続けて
くださいと話された。また第十回し
きなみ子供短歌コンクール入賞作品
を味わう。難しい言葉など使われて
いないが、どの作品も読者を惹きつ
ける。「短歌用語を知らないから詠
めない」というのは言い訳にはなりま
せん」と皆を笑わされた。
通常の歌会では、「歩めり」「
揺蕩とう(たゆとう)」「くきや
か」などの言葉を詠草歌の中から学
んだ。

また森田さんの歌に登場する
『筍』をめぐるのは、参加者の幼少
時代の筍や竹藪、筍掘りに

纏わる遊びや食卓の旬の味、筍の掘
り方のコツなど、話は大いに盛り上
がった。

今回の出張が最後になる先生は
「皆さんの積極的な会の進め方に安
心しました。翌年度からは甲斐靖幸
が担当になりますが、温かく迎えて
あげてください」と結ばれた。

しきなみ会員には、先生への感謝
の言葉をそれぞれの短歌に託し、倫
理会員の皆さんの寄せ書きと共に、
プレゼントする。(モーニング・ミ
クサーにて)

矢口先生、三年間のご指導、
ありがとうございました。

(参加者十一名)
(草野律子記)

秋津書道勉強会

六月二十日(土) 午前十時より十
二時まで矢口裕司専任研究員の下、
勉強会を行いました。

三年前はじめて教えていただ
いたときはスピードのある書道
の天才青年にびっくりし、昨年
夏るときは私の読みが少し深く
なったせいも全身にみなぎった
集中力と祖母様(現役の書道講
師)の血統のよさを引き継いで

いる身のこなし方に感心したもので
した。

本年は三十二歳、技術面もさるこ
とながら、すばらしい心の持ち方が
書道の教え方に、つまり楷書の生徒
さん、行書の生徒さん、草書の生徒
さんにそれぞれ指導していたときに
もこれはダメとか、こう書きなさい
とかは言わずにこのように筆を動か
すときれいに見えますよなどと教授
方法にも敬服しました。

秋津七月号の勉強は身長に近い
ぐらい大きく細長い半切の用紙に
「松 竹 水 声(十七画)
涼」の五文字を太い筆で書くことで
した。矢口先生がお手本を書くとき
にそばでよく観察しているといつ
ものように全体的にはすばやくきれ
いに書いていますが、ゆっくりの筆
運びのときは丁寧でも注意深くかつ
速めに、点をひとつ書くにも力を入
れて一寸の手抜きもしない細かい奥
深さを垣間見ることが出来ました。

例えば右下がりの点ひとつを教
えるときも口から声を出して
筆を紙に下ろしたとき「イチ」、
穂先をつけたまま筆腹だけを

チョット引き上げたと同時に
その腹をやや右横下に下ろして
「ニイ」、また筆腹だけをチョッ

と上げ、穂先をやや左横下にゆ
っくりはねて「サン」と終筆する
ことなど、何回も何回も時間を
かけて書き方のコツを説明して
くださいました。

画数が少ない字はちいさく書
いてかつ太く強く書くこと全体の
バランスがよくとれること。
書いている途中で字がかすれて
きたときは墨をつけずに、その
ままゆっくりと筆を運ぶとかす
れずにきれいに仕上がる。そし
てすぐ実験してみるとその通り
でした。

来年もまた教えていただきた
いと、全生徒さんが思ったこと
でしょう。

ありがとうございます。
なお、滝川歌子先生に毎月教
えていただいている有難さも忘
れていません。(大竹信雄記)



講話『栞』十二条

六月二十一日(日) 記念式典の後、矢口裕司専任研究員に講話を頂きました。矢口先生はこのご出張を最後にロス担当を終えられます。

先生はまず、自分が祖母から続いた倫理の三代目であること、生まれた時から倫理という環境にあり、当たり前のことと感謝する気持ちで自然と身についたのは幸せであつたと話されました。

秋津書道、しきなみ短歌は書道、短歌を通して純粹倫理をお伝えしていくのが目的。書道は自分の書からそして他人の書から相手のよい所を見つけていく目を養うことが大切。短歌もこの人らしさが出ているな、素晴らしいなどよいところを見つけていくことが大切です。そうすることによつても心が綺麗になつていきます、と説かれた。



【2席】 南カワフォルニア 咲田 静子

『栞』の第十二条を先生は『捨我得全』をそれぞれの文字に心がこめられていることを心にとめて読むこと。「気付いたらすぐする」とあります、あつという間の二十年と気付きの連続の二十年とは学びが違います、考えたことをすぐ行動に移すということは難しいですが是非トライして頂きたいと思えます、出来なくても心の広さが養なわれていきますと話された。

次に「十分に研究調査し、時がきたと思えば、一気かせいにやつてやりぬく」とあります、考えた段階で自分の中で動いてみようとする決意することが大切です、倫理の学びというのはスイッチを変える勉強といった方がわかりやすいです。今までは人の欠点を探していたとしても倫理の学び、そして気付きによつて相手の良い所を見つけていく。そこに気付いてスイッチを変えらる。純粹倫理の学びは人生をよりよく変えていくためのスイッチです。

いつか、ピンチが襲ってくることもあると思えます。倫理はピンチをチャンスと捉えています。ピンチをチャンスに変える心を養っていくのも倫理の勉強です、いきなりそういう考えにならなかつた

しても一歩一歩続けていく、結果を考えるよりまずは進んでみる、これが倫理実践要件の大切な所で、こういう普段忘れがちな所を是非改めて考えてみてはいかがでしょうかと分かりやすく、心に沁みる講話でした。

先生は、皆さまにお願いしたいのは、後継者を育てて頂きたいということとです。そして、これから倫理USAをどんどん広げていって下さい。その為に皆さま一人一人が輝くことを切に願っておりますと締め括られた。聞き入る會員の胸は感謝に満ち、矢口先生のお心に応えようという思いで一杯であつた。

矢口裕司先生、

三年間、ありがとうございます
(尾崎よしみ記)

懇親会

六月二十一日(日) 午前十一時よりコロソニアパークで矢口先生を囲みBBQ懇親会を行ないました。

ビーフにチキン、焼きそば、チリドッグ、コーン更に有志の持ち寄りの数々に舌つつみをうちました。

懐かしい會員が久しぶりにお元気な姿を見せて下さった

のは嬉しいことでした。

BBQもそろそろ終わりになつた頃、飯田隆事務局長の知人の井上知香さんがサクソフオンでプロの演奏を披露してくださいました。「浜辺の歌」や「荒城の月」、そして「ふるさと」など懐かしい歌を皆で口ずさみました。會員一同、知香さんのこれからの活躍を祈っております。お忙しい中お出で頂きありがとうございます。

皆で食べて飲んで(ノンアルコール)おしゃべりしてのあつという間の三時間半でした。このBBQのために場所の予約から細かい運営に至るまで、お世話をしてくださった飯田隆さん。そして買い出しから下準備まで万全の準備で皆さんの胃袋を満たしてください。さつた前田グレースさん。お二人に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

もちろん、事前の準備から当日までたくさんの方の協力があつたのBBQでした。皆さん本当にありがとうございます。

(参加者五十五名)
(伊澤潤子記)

おめでとつづいびます

『しきなみ七月号』

群螢集 (西東京・海外)

二席 長谷川松子

アメリカの日系マートの恵方巻きとんかつ
キムチと驚きの味

【評】海外進出した恵方巻き。国が違えば変
わるものですね。庶民的な味わいを新鮮に

詠んでいます。(小手川文字選考)

三席 草野律子

「肺癌の治療を終えた」と届きたる高校時代

の親友のメール

青泉集 (西東京・海外)

三席 飯田隆

我が道も倫理の道も遠けれど純粹倫理の実
践あるのみ

『秋津書道』七月号

競書

二席 咲田静子 高等部 (東京)

入選 長谷川松子 々 々

入選 梅本豊造 々 々

三席 前田グレース 一般部 (東京) 行書

入選 榊中恵美子 々 々

入選 立川宏子 々 々

入選 高橋ひとみ 一般部 (東京) 楷書

入選 高田弓子 々 々

入選 飯田隆 々 々

入選 大竹信雄 々 々

甲乙洞
然乃公

前田グレース 咲田静子

2席 咲田 静子

甲乙洞
然乃公

前田グレース

3席 前田グレース

墨色良く澄んだ線質です
ばらしい。

線に勢いがあり、良く練
習されました。

調和体

二席 咲田静子 高等部

しきなみ短歌

友よりのメールで届く桜には驚止まりホケキ
ヨと鳴きそつ 長谷川松子
我が子とは何を聞いても「多分ね」と会話の
糸ロシヤットするなり 塩出笑子
競技では見せない笑顔を氷上に咲かせて滑る
メダリストらは 伊澤潤子
葉桜を見ながら食べるお弁当おかずはスマホ
で日本の桜 飯田隆

帰宅したオリビアの背にパーカーは飛び乗り抱き
つきにつこり笑う 梅本豊造

姑書きし書道ほめれば吾を見詰め顔くしやくしや
にし幼児のよう 梅本和子

居た振るる雷風雨に無惨にも一夜散り敷く藤の花
房 門園美枝子

得意気に判断不能な文字並べ己が名と言う四歳保
育児 ホン史子

リビングに始めて活けし花を置く生きるゆとりの
ここにあるらし 松永典子

スピーチで堂々とした姿を見子供成長肌で感じ
る 尾崎よしみ

朝起きて青春時代の音楽を聞きいて今日も元気に
生きる 与那覇寛雄

引く波に豆炒る音のさざれ石春の浜辺に亡き夫と
いる 森田のりえ

前向きな言葉を友より教わりぬ「和顔愛語」が心で
踊る 草野律子

真夜中に吾の求めたる靴を買いうれしがらせる優
しい娘 摺木洋子

早朝の湿った草に日が射してかすかに昇る湯気が
立ちたり 松元依子

こんもりと枝さし交わし咲きみだれ桜並木はその
地の誇り 滝川歌子

満月は下界の宵を明かあかと照らしてまぶし澄み
渡る空 奥本洋子

陽たまりの松の花粉は風にまい黄はみて烟る「もう
春ですな」 杉野和子

突然に意識を失う祖母のあり父はすかさず近寄り
しとう 矢口裕司